

避難時の心得

みんなで助け合い、落ち着いて
早めに避難できるようにしましょう!

避難時の心得

戸締り・ガス・火元・電気のチェック

避難の際は、火の始末と戸締りを行います。
避難時の持出し品は必要最小限になるようまとめましょう。



車での避難は控える!

緊急車両の通行に妨げになります。
浸水すると動けなくなりますので危険です。



速やかに避難を!

動きやすい格好で、2人以上で避難しましょう。災害に巻き込まれる可能性があるため、忘れ物などを取りに、家に帰らないようにしましょう。



洪水・土砂災害での避難の仕方

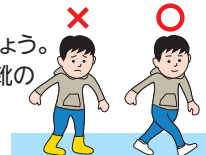
歩ける深さに気をつける!

歩ける深さは平均約50cm。
水がひざまで来たら助けを呼び、高い所で救助を待ちましょう!



履き物に注意!

裸足は禁物です。
ひもでしめられる運動靴が良いでしょう。
なお、冠水時の長靴の使用は控えてください。



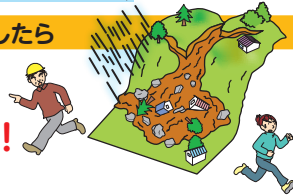
ロープでつながる!

はぐれないようお互いの身体をロープで結んで避難しましょう!
また、水面下には危険が潜んでいます。
長い棒や杖がわりに安全確認をしてください。



もしも、土石流に遭遇したら

**逃げ方に
注意しましょう!**



土石流は流れるスピードが速いため、流れを背にして逃げたのでは追いつかれてしまいます。
土砂の流れる方向に対して、直角に逃げる等、逃げ方に注意しましょう。

援助が必要な人がいたら

高齢者や病気の方

お年寄りや子ども、病気の方などは、早めの避難が必要です。
みなさんと協力して避難しましょう。



目の不自由な方

はっきり、ゆっくり大きな声で話しかけましょう。
誘導する場合は、ひじの辺りを軽く持ってもらいゆっくりした速度で半歩前を歩きましょう。



耳の不自由な方

話す時はまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かしましょう。
手話、筆談、身ぶりなどの方法で正確に情報を伝えましょう。



体の不自由な方

車いすの方の場合、階段では必ず3人以上で! 昇る時は、前向きに、降りる時は後ろ向きにします。



感染症対策

避難所では必然的に密閉・密集・密接のいわゆる「3密」の状態となる確率が非常に高くなります。
避難所内での新型コロナウイルスやノロウイルスなどの感染リスクを減らすためにも、**安全な親戚や知人の家など村が指定する避難所以外に避難することも考えておきましょう。**

指定緊急避難場所

災害から命を守るために緊急的に避難する場所です。
自宅近くの公園、広場など一時的な避難場所です。
もし、災害が発生し自宅などで危険を感じた場合はここへ避難し、被災したときは集団で指定避難所に避難します。

指定避難所

災害の危険性があり、避難した住民等を災害の危険性がなくなるまで必要な時間滞在させ、また、災害発生後に、被災者等を一定期間滞在させるための施設です。
村内のコミュニティセンター・小中学校など主に公共施設を指定しています。